

1. 職員構成

年度末時点の人員数は、医事職員8名、医療秘書6名（うち育休2）であった。医事業務委託（ニチイ学館）は、基本業務9人工と追加業務2人工（うち予約業務1、入館チェック1）の計11人工であった。

2. 主なイベント

時期	内容
2021年5月	初診患者の問診を充実させるために、AI機能問診システムを導入し、タブレットによる事前問診開始
2021年9月	未収金対策として、連帯保証人代行制度（スマホス）導入
2021年10月	オンライン資格確認システム稼働開始
2021年11月	新型コロナ感染対策と患者サービス向上のため、総合受付、入館者案内用大型モニター（1台）、待機ブース（2室）を設置

3. 外来の動き

常勤医11名、非常勤医の体制は、前年度と変更はない。

外来患者数は1,823名増加（+5.2%）し、平均患者数は151.5名（前年比7.4名増）となった。また初診患者数は195名増加（+6.3%）、救急患者数は4名増加（+0.1%）、紹介患者数は104名増加（+7.0%）となった。

2021年度も前年度同様にコロナ禍における「受診控え」や「三角・上天草地域の旅行者減少によってケガや事故などの患者減少」などに影響が残っており、2019年度の患者数まで復調していない。

4. 病棟の動き

「急性期から亜急性期・回復期へのシフト」、「高齢化による医療需要の変化」に対応するため、2021年4月1日に病床再編を実施した。（変更後：一般27床、地域包括ケア61床、回復期リハビリ40床）

在院患者数は1,381名増加（+103.7%）、新入院数は58名増加（+104.8%）であった。また病床利用率は全体128床で82.3%（前年度80.0）・コロナ病床除く116床では89.6%（前年度87.1）と2019年度の状態で復調しつつある。手術件数は99件（前年度116）と年々減少している。

前年度同様に新型コロナ感染入院者の多くの入院受入を行った。

5. 施設基準（※新規、変更項目のみ掲載）

時期	内容
2021年4月1日	・急性期一般入院料4 27床（48床から変更）
	・地域包括ケア病棟入院料1 48床（0床から変更）
	・地域包括ケア入院医療管理料1 13床（48床から変更）
	・夜間急性期看護補助体制加算 50対1（100対1から変更）
2022年3月1日	・医師事務作業補助体制加算 40対1（25対1から変更）
2021年4月1日	・診療録管理体制加算2（1から変更）

6. 医業収益

入院収益は1.5億円増（前年比+10.2%）であった。要因は、病床利用率の増に伴うもの、1F入院患者（高単価）の増に伴うもの、病床再編に伴う単価増によるもの。

外来収益は0.2億円減（前年比▲2.7%）であった。要因は、外来単価減、薬価減（改定、ジェネリック化、高額薬減少）によるもの。

7. 査定

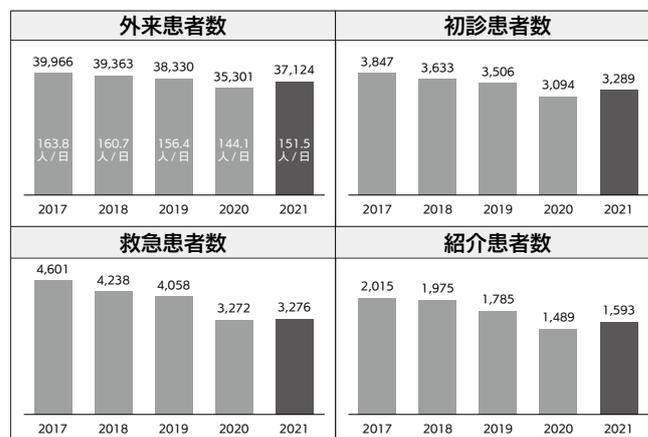
査定率（査定金額／請求金額）は、年平均0.31%（前年度0.10%）で増加に転じた。大きな要因は、社保はコロナ入院患者の救急医療管理加算がハイケアユニットの包括で算定できず査定となった。国保は脳血管疾患等リハビリテーション料（1）について、診療内容判断により9単位が6単位へ一律に査定となった。

8. 「医療機器・診療材料」購買

前年度同様に医事業務との兼任者2名で担当した。

医療材料管理業務は委託しており、委託期間は2017年10月から2022年9月30日までの5年間であるため、委託見直しの準備に入った。

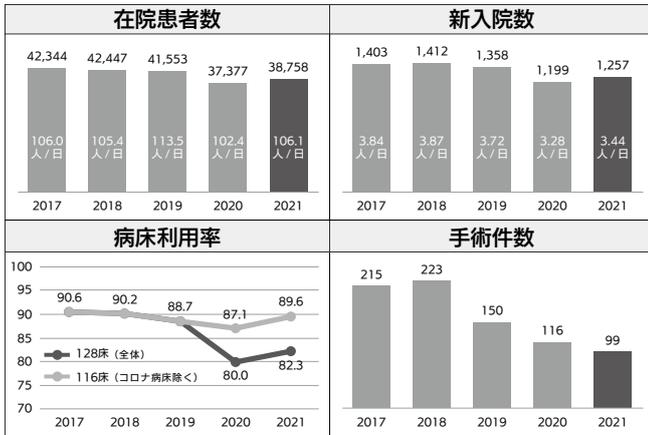
<患者数の推移（外来関連）>



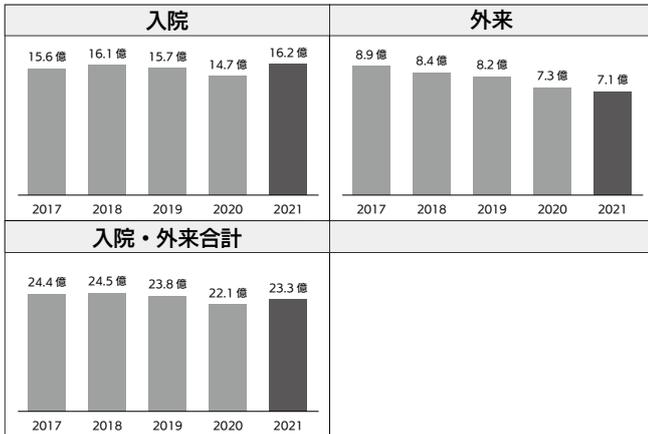
◆情報システム室

室長 山内剛志

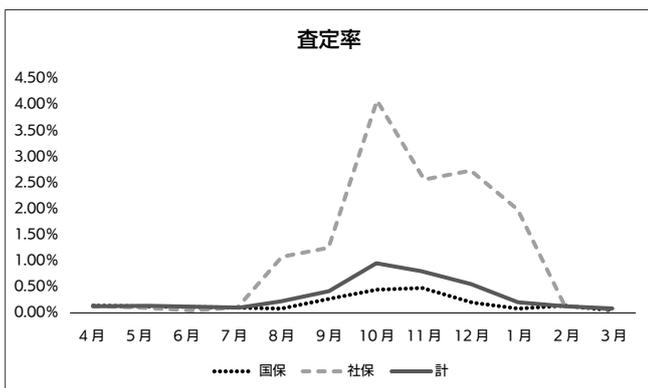
<患者数の推移（入院関連）>



<収益（診療報酬上の収益、空床補償等は含まず）>



<査定率>



8月から新体制となり医事室員2名が兼務、およびシステム室専従1名の3名で対応している。主に「障害・保守対応」「企画・購入」「規程整備」「セキュリティ対策」などを担っている。

2021年度は前年度に続き新型コロナウイルス感染症に対応するために必要なシステムを中心に整備した。

<取組実績>

- ・仮想デスクトップ環境更新
- ・AI問診システム導入
- ・オンライン資格システム導入
- ・LINEWORKS導入（職員連絡ツール）
- ・CandyLink契約更新（スマホでの教育環境整備）
- ・電話発信記録ツール等 各種ツール開発（ACCESS）
- ・会計監査（システムレビュー）、運用管理規程等の更新
- ・オンライン診療サポート（松合医院巡回診療、PERIO-DX）